

聖霊降臨節第8主日(緑)

主日礼拝

2025年7月27日 10時20分～

司式:

奏楽:

《神の招き》

前奏 『キリストよ、汝は日なり、光なり』 J.S. バッハ
招詞 エゼキエル書13章23節
賛美歌 51

《神の言葉》

祈禱 聖霊の照らしを求める祈り
聖書 エレミヤ書7章1～7節 (旧約1173頁)
使徒言行録19章13～20節 (新約 246頁)

こども説教
交読詩編 詩編119編105～112節 (147頁)
賛美歌 492
説教 「新しい生活」 八木浩史牧師
祈禱
賛美歌 173

《感謝の応答》

信仰告白 使徒信条
献金 献金当番
祈禱
主の祈り (週報表紙、ホームページ掲載)

《派遣》

頌栄 I-542
祝福
報告
後奏

礼拝当番: (役員:) 献金当番:
音響: 映像:

■■■ 調布教会は2026年度に創立80周年を迎えます! ■■■

「新しい生活」

『エレミヤ書』では、神に対して不誠実なユダ王国の人々に、預言者エレミヤを通して、神が預言を与えられます。前622年にヨシヤ王は、神殿修復の際に律法の書を発見し、宗教改革に取り組みます。エルサレム以外の聖所を全廃し、エルサレム神殿において、律法に忠実な礼拝を行うことで、神に対して誠実であろうとしたのです。しかしヨシヤ王が戦死後、神殿祭儀は形骸化していきました。「盗み、殺し、姦淫し、偽って誓い、バアルに香をたき…他の神々にしたがっている」(9節)のに、「主の神殿、主の神殿」と言い、いかにも主なる神に従っているかのように見せているのです。エレミヤは「道と行いを改め」(5節)ることを求めます。そして悔い改めがなければ、やがてこのエルサレム神殿も、主なる神御自身が破壊されるのだと告げるのです。その預言のとおりになり、バビロン捕囚の際に、エルサレム神殿は破壊され、廃墟となるのです。

『使徒言行録』では、エフェソにおいて祈禱師たちが、パウロの真似をしようとして、「試みに」主イエスの名を唱えて、悪霊を追い払おうとします。ところが悪霊は「イエスのことは知っているし、パウロのこともよく知っている。だが、一体お前たちは何者だ」と問い返します。そして悪霊は、答えられない祈禱師たちに襲いかかり、酷い目に遭わせたのです。パウロが行っていた病人の癒しや、悪霊払い、主イエスに仕える者として、主イエスによって行われていたのですが、主イエスに仕えてもいない者が、主を利用しようとしても、主は働かないのです。私たちは本当に主に仕える者でありたいですね。